

第六方面軍司令部略歴

代理 陸軍大將 岡村 寧次
陸軍大將 岡部 直三郎

年月日	概	要
昭一、九、九、一〇	湘桂作戦の第二期漢口に於て編成に着手	編成完結
一九、九	方面軍司令部の編成完結するや直ちに第十一軍を主体とする作戦諸隊の統率を派遣軍より継承し現に実行中湘桂作戦完遂の爲戦闘司令部を湖南省南嶽市に惟	進す
一九、九	湘桂作戦	湘桂作戦
至二〇、二	但し湘桂作戦は	但し湘桂作戦は
一九、五、二七	開始せられ方面軍編成當時は既に第二期に在り主として桂柳地区航空基地群の覆滅及之に伴う敵戦力の退却並に爾後湖南、広西要域の確保等に任す	但し湘桂作戦は
一九、一、二	在南嶽方面軍戦闘司令部を撤収し漢口に帰還	但し湘桂作戦は
一九、一、二	南部興漢打通作戦	但し湘桂作戦は
至二〇、二	但し方面軍其の大綱を策定し第二十軍と協力し主として第二十軍をして担任実行せしむ	但し湘桂作戦は

年月日	概	母
昭二〇、三、 至二〇、四	<p>北支那方面軍の老河口作戦に協力し主として第三十四軍をして担任実行せしむ 派遺軍内に於ける龐大なる兵備の改変及之に伴う万箇軍隷下に於て改変新設せ られたるも概要左の如し</p>	
二〇、六	<p>第十一軍 89B (金泉) 主として 34D を基幹とし 3D 13D より充当す 第二十軍 81B (湘潭) 主として 14B を基幹とす 82B (株州) 主として 24B を基幹とす 86B (至慶) 主として 116D を基幹とし 34D 54D より充当す 87B (柳泉) 主として 88D を基幹とす 24D (長沙) 主として 34D 54D の所屬人員を基幹とす 第三十四軍 132D (当陽) 主として 發發作戦参加部隊たる 39D 17B 52B 72B 114B 124B 54B 94B 104B の連 制大隊又は混成大隊を基幹とす 83B (漢口) 主として 54B を基幹とす 84B (九江) 主として 24B を基幹とす 88B (廣城) 主として 64B を基幹とす</p>	
二〇、四	<p>第三十四軍司令部の北辭轉用に伴い従来同軍の隷下部隊及其の所轄即ち武漢、 九江南昌、岳州宜昌、信陽を含む地域一帯を方面軍直轄とす 湘西作戦</p>	
至二〇、六	<p>芷江方面に向う作戦とし方面軍其の大綱を策定し主として第二十軍をして担任</p>	

0015

二〇、三 二〇、三	実行せしむ SPDの南滿・轉用 至終戦
二〇、八、一四 二〇、八、一六	米軍の大陸上陸作戦の傾向激化に伴いSPD SPD等抽出転用あり且相桂直又作戦の 目的を達成せると内外全般の状況より速方に戦面を収縮すると共に武漢を中心 とする不攻態勢確定の必要より逐次廣西、湖南の要域より撤収するに決し反転 収縮中終戦となる 停戦詔書発令せらる 二一、一時
二〇、八、一七	派遣軍の停戦命令を受領 二時
二〇、八、二〇 二〇、八、二五 二〇、九、二	方面軍の停戦命令を下達 第一線端末に至る迄完全に停戦す 復員下令せらる 聯合軍との停戦協定成立す 爾後派遣軍命令に基き主として方面軍直轄地域に於ける局地交渉に任し且直轄 諸隊の復員業務を担任指導す
二一、六、一七 二一、七、一一	最終戦により武漢を占領 最終戦により上海を占領

第六方面軍司令部略歴

陸軍部 陸軍建設中佐 竹本清太郎
 部隊長 陸軍大將 岡部直三郎

年月日	概 要
昭二一、三、五	復員本部に於ける固有財産整理要員として派遣の目的を以て、坂手田名、川崎忠六、小谷新、猪去俊介、田中安太郎と共に漢口を出發し部隊主力と分離す
四、二	上海到着小谷坂手は左蹠痛歩行困難の爲上海陸軍病院に入院、他は異状なきも附近に伝染病容疑者発生に依り
四一五	点隔離せられ同日上海を出發す
四、二	博多上陸二日市町に至り同日二六日復員本部勤務を命ぜられ固有財産整理業務に任す
五八	猪去坂手並に田中坂手は担任業務終了に付 命により帰郷す
五一三	川崎坂手は担任業務終了に付命により帰郷す
五、一三	復員完了

第六方面軍司令部略歴

軍司令官 河 部 直三郎

年月日	概	要
昭二一、三、三四	田辺中佐以下二十四日帰還の目的を以て漢口に於て主力と分離	
四、一	上海着、田辺中佐は乘船地勤務のため上海残留、竹本中佐之に代りて指揮す	
四、二	竹本中佐以下三十五名出帆	
四、三四	博多上陸、前田大尉以下二十三名除隊、召集解除	
	竹本中佐以下十名は復員本部要員として二日前に至る 入院長谷部准尉、高井曹長は博多入港のため除隊せしめたが、復員本部要員の 手定	
	其の他全員異状なく帰郷せり	
	三浦策造軍醫は残務整理のため二日前に至り残務整理に任す	

(3)

9750

0019

内又井... どの回

部隊行動の概

第大方面軍司令部被服移動修理班

年月日	主 要 略 歴
昭二一、六、二三	上先遣隊四十五号命令に基き本隊より分送す
二一、六、二四	将校 三、 卒下士 四 二四
二一、六、八	LST 八号に乗船上海出帆
二一、七、一	佐世保港到着
二一、七、二	佐世保港出帆
二一、七、三	仙崎港到着
二一、七、三	仙崎港上陸復員式概行陸軍主計大尉堀口政七以下二四七名

(7)

0020

部隊行動概況書

昭和二十一年五月十四日

第六方面軍司令部附

陸軍法務大尉 宮本聖司

第六方面軍司令部、一部

部隊長 陸軍大將 岡部直三郎

年月日	概要	要
昭二一、三、三四	復員本部に於ける慰救業務処理の目的を以て進士官一と共に漢口を出發部隊主力と分離す	
四、二	上海到着南吳淞兵舎に	
四、一五	迄隔離せらる	
二〇	上海を出發す	
四、二四	博多上流二日市町に至り	
三、六	復員本部勤務を命せられ慰救業務の処理に任し	
五、一四	任務終了帰郷す	

部隊の行動概略

第六方面軍司令部
陸軍法務大尉 井口 源一郎
第六方面軍司令部 陸軍法務大尉 井口 源一郎

年月日	概	要
昭二一、五、二三	第六方面軍司令部出発	
二五	江寧丸にて漢口出発	
三〇	上海到着	
六一、五	Y〇〇マにて上海出発	
三二	博多港上陸と共に、除隊、召集解除解備、帰郷 田原四十八名九州行刑監圧に対し移管完結	
六、八	大赦予定者一喜多輝美、西山岩男、宇根 勉、佐竹 孝、坂井伊三郎（五名は刑務所長に於て移監方を拒絶したる為已むなく釈放帰郷せしめたり尚、未決囚五名は即時上陸地に於て釈放帰郷せしめたり 特記事項 未決囚六名中松永 正は上海に於てマヨリヤ病にて同地所在救急病院に入院せしめたり	

(10)

0023

大、五

恩赦事務に先発せる法務省検下士官は已むなく移管せる囚徒に対し本通知及
リ
尚恩赦関係に付刑務所長に対する連絡なき爲大赦予定者（前科関係調査未済）
を引取りさしめらるなり
同行せる佐藤督長は
上陸出発、千葉大尉はマラリヤ三日熱の爲同行し帰す
興田一男の在監存名簿判決沙本立田所長の一件、書類印鑑、鈴木、大河内曹長
の従軍證明書を復員本部より受領せられ度

(11)

0024

第三百三十二師団司令部略歴

代理 陸軍中将 柳川 梯

年月日	概	要
昭二〇、四、三六	軍令陸甲第十八号に依り編成下令	
四、元	中華民國湖北省當陽泉當陽に於て編成完結爾後石地庄の教備に任す	
八、一四	停戦詔書発布	
八、五	復員下令	
九、二	停戦協定締結	
九、一七	湖北省天明に移駐	
二一、五、一	江蘇省上海に移駐	
七、二	浦賀港上陸	

外子中・又

(12)

1306

0025

本隊より分れての行動概要

第百三十二師団司令部(一部)

上海に於て司令部先遣を命ぜらる

指揮官 陸軍大尉 吉村 孝
 人員 一四六七名

年月日	概要	要
昭、二一、五、二四	於上海乗船	
五、二九	博多港上陸	
	天然痘のため隔離	
六、一四	隔離解除	
	除隊召集解除	
六、一五	残務整理のため復員本部到着	
	人員 陸軍大尉 吉村 孝 陸軍軍曹 河村 博	

行動の概要

第百三三師團司令部の一部
指揮官 盛軍中佐 桐野光繁

年月日	概要
五、三	師團司令部主力は当分の間上海に残留し残務整理を行うを以て小官は一即帰還の爲之が指揮官を命ぜられ 其の人員六七名を指揮し上海に於て主力と離して乗船爾後航海中何等の事故なく二十八日鹿児島灣に仮泊
六、一	同地上陸翌二日復員式を終へたる後鉄道輸送を以て各人希望の家郷へ向う 小官以下二名は三日早朝二日市復員本部に出頭残務整理を終へ同日召集解除帰郷の途に就く

ナシキ

(14)

0027

第百三十二師団司令部略歴

第一回三野戦郵便局

主力分離後の行動概要

五、二六	<p>十一日歩兵第六〇大隊長輸送指揮官の下に第十一軍兵器廠の将兵と共に第一二九号乗船命令受領直ちに先発後発何れも自動車にて飯田棧橋に至る 十五時乗船第一甲板左舷船員室を配望すると共に十六時解纜室内は温気烈しく蒸れが如くなり 本日巻外仮泊</p>
五、二七	<p>五時出帆帰港地に向う途中天候晴即にて波絶点静穏なり</p>
五、二八	<p>今日も昨日に引継ぎ静かなる航海を続く</p>
五、二九	<p>天候に恵まれ波消に穏小憂慮され 玄海灘も知りぬ間に退き船酔のものもなく 十八時山口県仙崎巻外に到着 碇泊</p>
五、三〇	<p>天気愈々良好内地の涼風に脚蹠を味ひ下ら船中に待機のどかなり体格検査(向診)異状なし</p>
五、三一	<p>発疹チブス予防接種十八時演芸大会にて息災揚る</p>
五、三二	<p>天気益々晴朗夜穏なること鏡の如きなるも暑気烈し 天然痘接種</p>
六、一	<p>昨日に劣らぬ静かなる天気行動開始後連日天候に恵まれ難有き極みなり十四時港内に入港</p>
六、二	<p>早朝小雨あり 一日雨天</p>

年月日	概要
	<p>七〇〇上陸開始 埠頭に於て検疫検査を受け仙崎国民学校校々庭の復興式に余列終了 正明市駅より一三、一七の列車に各長帝御せり 平野、青柳両名残務整理の為残務書類の点検を終了復興本部二日市に向う</p>

ト
フ
入

(16)

8500

0029

歩兵第九十七旅団司令部略歴

旅団長 陸軍少将 梶 満 銀次 郎

昭、二、四、二六	軍令陸用第十八号に依り縮成下令
四、二九	中華民國湖北省宜昌泉宜昌に縮成完結
四、三〇	縮成完結と同時に第三十九師団より宜昌地区の警備を継承
九、一六	に至る(襄樊作戦後の警備)
八、一四	得鞍詔書発布
八、三三	復員下令
九、二	得鞍協定締結
九、三	戦道為宜昌出發同年同月二十五日湖北省天门泉天门着爾後同地駐留
二、四、三七	内地帰還の為天门出發
五、一二	上海着
五、三〇	上海出帆
六、五	佐世保港上陸

第百二十二師団独立歩兵第五百九十九大隊略歴

代理 陸軍少佐 小坂田 浩

年月日	概	要
昭二〇、四、九	一、昭和二十年軍司令陸用第十八号に基き湖北省宜昌県宜昌に於て独立歩兵第五百九十九大隊編成	
	ノ、大隊長 陸軍大尉	
	ニ、爾後宜昌西方地区に於て対陣襄陽作戦後の警備に任ず	
二〇、八、四	一、停戦詔書發布	
八、五	一、復員下令	
九、二	一、停戦協定締結	
九、三	一、賊運の為宜昌出発	
一〇、五	湖北省天门县天门东方大軒賈王家湾着	
	ノ、昭和二十年十月六日至昭和二十一年四月二十五日賈王家湾附近駐留	
二一、四、六	一、獻進の為賈王家湾出発	
五、二	江蘇省上海着	
五、三	一、内地掃蕩の為上海港出発	
五、九	一、博多港上陸	

独立歩兵第六百大隊

陸軍大尉 岩崎 守

手、月、日	概要
昭二〇、 四、九	<p>軍令陸甲第十八号により在支部隊編制改正、 独立歩兵第六百大隊編成発給 編成要員の主力は第三十九師団にして残余は軍内各兵団へ抽選し、 独立歩、ス、ハ、各旅団より充足を受く 第三十九師団より残置充足の部隊編成基幹人員は各中隊夫々二〇〇二五名異在 し他は入院分派遺生を不明入監者等より其他の兵団差出充足人員は襄樊作戦及 長途の行軍の爲不整の到着にして発給日より一ヶ月を経過して概ね掌握するを 得たり</p>
自昭二〇、四、三〇 至 九、三	<p>行動概要 湖北省宜昌県宜昌附近に在りて襄樊作戦後の整備</p>
八、四	<p>停戦詔書発布</p>
八、五	<p>軍司令陸甲第一一六号により復員下令</p>
九、二	<p>停戦協定締結</p>
九、四	<p>内地帰還の爲湖北省宜昌県宜昌出発</p>

第百三十二師団独立歩兵第六百一大隊略歴

現役陸軍少佐 川崎 陸雄

年月日	概	要
昭二〇、	軍令陸軍第十八号に依り在中国臨時編成隊三二二次復師（復員）に基き独立歩兵第七旅団（在江西省南昌）より襄樊作戦参加中の川崎大隊（歩四中MGIIV各一小一）を基幹とし更に同旅団より歩一中及其の他の人員を充足し	
昭二〇、四、三九	湖北省宜昌県龍泉鎮に於て編成す	
四、一〇	編成着手	
五、	編成完結編成完結當時に於ける將校職員表別紙の如し	
〃	編成完結と同時に第三十九師団歩兵第百三十一聯隊第ニ大隊及第ニ百三十二聯隊第ニ大隊の任務を継承し湖北省宜昌県龍泉鎮双蓮寺地区警備を担任し双龍地区警備隊として第一線警備に任ず	
八、一五	其の配置要図の如し	
八、一五	待戦詔書拜受	
八、一五	大隊は原配置の態勢に於て中国軍に引継を完了戦進のため九月三日先づ双蓮寺（一部）鴉鶴嶺（主力）に集結す	
九、一六	双蓮寺及鴉鶴嶺を出発警備に於て大隊全部集結を終り爾後引続き行動し	
九、二六	湖北省天門県新堰口に集結	

年月日	概要
昭二〇、九、二八	湖北省天门漢新堰口に集結後、武漢地区第五日本官兵管理所の管理を受く
二一、四、三七	帰国復員のため新堰口出発、五月三日考感に於て果敢鉄道輸送に依り
五、二	上海に集結す
二〇、五、二六	帰国のため部隊一部第五中隊長永井大尉以下六八〇名上海果船帰還す
二一、五、三五	大隊長川崎少佐以下二八一名上海第一兵站勤務隊となり
七、四	中国軍に引継を完了
六、一	部隊一部帰還部隊永井大尉以下六八〇名は蕪寧鹿兒島に上陸同日解散各都道府県別に分送帰郷す
七、五	中国側の要求に依り大隊長川崎少佐及附添傳令一名は乗船を延期せられ上海に残留す
七、六	帰国のため大隊副官並木大尉以下二七九名上海乗船
七、三	浦賀港着同日及十四日検疫終了
七、五	浦賀に上陸
七、八	解散（徐隊百集解除）
七、八	復員完結

(22)

0035

ト
中
支

年、月、日	概要
昭二一、五、一	孝感着飛行場兵舎に於て乗車待機
五、三	孝感出発鉄道輸送に依り上海に向う
五、一	上海着吳淞第三兵站宿舎に於て乗船待機
五、三	上海飯田村橋出帆
五、三	仙崎港に上陸
六、一	復員完結

(24)

0037

第百三十三師 田歩兵第百九十八旅 田司令部略歴

陸軍少将 河村貞雄

年月日	概	要
昭二〇、四、三九	昭和二十年軍令陸甲第一八号に依り歩兵第百九十八旅田司令部の編成を下令せらる	
四、三九	中華民國湖北省荊門県荊門に於て編成完結	
同年同日	陸軍大佐河村貞雄少兵第百九十八旅田司令部に歩兵第百九十八旅田長として着任	
自 四、三九	中華民國湖北省荊門附近の警備に任ず	
至 九、二	停戦下令（中華民國、湖北省荊門県荊門に於て拜授）	
八、二五	復員下令	
九、九	集中区ハの移動のため中華民國湖北省荊門県荊門出發	
一〇、七	中華民國湖北省荊門県荊門地区に集結を完了す	
二、四、三八	内地返還のため同地出發	
五、一三	上海到着	
五、二四	上海港出發	
五、三九	鹿児島港着	
六、一〇	鹿児島港上陸	

内
フ
ト
文
書
の
山

年月日 昭二一六二	概 復員式終了
要	

(26)

0039

独立歩兵第六百三十三大隊略歴

年月日	概	要
昭二〇、四、九	編成下令編成完結	
自 四、三六	軍令陸甲第一八号に依り独立歩兵第六百三十三大隊の編成を下令せらる	
至 四、三九	中華民國湖北省当陽県当陽に於て編成を完結す	
自 四、三六	大隊長命課 陸軍大尉山内一独立歩兵第六百三十三大隊長に補せらる	
至 九、三	警備	
自 八、一四	湖北省当陽県当陽に於て同地附近の警備に任ず	
至 八、一五	停戦下令	停戦の詔書を拜受す
自 八、一五	復員下令	
至 九、二	復員下令を命せらる	
自 九、二	集中地区たる湖北省天门県に移動の爲同地出發	
至 九、二	湖北省天门県天门地区に集結	
自 二、四、六	帰還	
至 五、三	内地帰還の爲同地出發	
自 六、二	上海出帆	
至 二〇、八、二	鹿児島上陸	
至 二一、六、二	復員業務に従事す	

第百三十二師團獨立歩兵第六百回大隊略歴

陸軍少佐 小 濱 勇

年月日	概	要
昭三 三五	軍令陸甲オ一八号に依り在中國部隊臨時編成(編成改正)を命ぜらる	
至 四元	編成完結	
自 三二五	襄樊作戦参加	
至 四六		
自 四元	當陽県當陽附近に在りて襄樊作戦後の警備	
至 九一六	転進の爲當陽県穿心店出発	
九二七	天門県岳口市着	
九三四	転進の爲岳口市出発	
昭三 四六	上海着	
五二四	上海出発	
七一	浦賀上陸	
七二〇	陸隊召集解除	
六三三	内地帰還時主カと分離し復員した一部、部隊略丁は省略す	

外ヶセ

根立歩兵第六百五大隊略歴

陸軍大尉 白 高 博

年月日	概 要
昭二〇、四、元	中華民國湖北省當陽縣涇溪河に於て編成完結（軍令陸甲字十八号）
自二〇、四、元	中華民國湖北省當陽縣涇溪河附近に於て警備勤務
至二〇、九、二七	岳口附近集結のため涇溪河出發
凡、一八	中華民國湖北省天门縣岳口到着
一〇、七	全地附近に駐留
二一、四、三七	内地帰還のため岳口出發
五、一三	上海看、到着人員列表の始し
六、二	内地帰還のため上海出發
六、三〇	博多港上陸

(29)

0042

年月日	概	概	要
昭一、九、二一、二〇	陸軍機密才四十一号に依り才十野戦補充隊臨時編成下令せらる	三、一九	満州国牡丹江省掖河歩兵才七聯隊に於て才十野戦補充隊歩兵才二大隊編成完結 編成左の如し 歩兵才二大隊 一戦中隊四個中隊 機関銃中隊 歩兵砲中隊一 初代 才十野戦補充隊長 陸軍少将 下 川 忠 義
三、一	初代 才十野戦補充隊長	三、一八	初代 才十野戦補充隊長歩兵才二大隊長 陸軍大尉 仲 村 善 一 部隊は寒気凜烈なる東滿を後にし鐵路輸送を以て一路南進す
三、一七	部隊は長江湖時を以て才十一軍司令官の隷下に入る	三、一六	部隊は滿筆國境山海關通過時を以て中國派遺軍總司令官の隷下に入る 才二代補才十野戦補充隊長歩兵才二大隊長 陸軍大尉 伊 藤 清
三、二〇	部隊は冀口に到着時を以て才五十八師團長の指揮下に入る	四、一五	部隊は才五十八師團整備地域湖北省鑑祥泉黃家集地域の警備継承を完了し同地

四三九	武に駐在す 才五十八師団敷進に伴ひ部隊は黄家某地城前面の陽攻作戦を夾抱す 部隊の損害なし
五	才二代補才十野戦補充隊長 陸軍少将 松 井 節
八一四	應城泉太城附近の対空戦闘に於ての戦死者 陸軍中尉 篠 田 善太郎
八一七	鐘祥県青峯山附近の戦闘 本戦闘に於ての戦死者 陸軍上等兵 米 村 稔
八三〇	鐘祥県史家湾附近の戦闘 本戦闘に於ての戦死者左の如し 陸軍曹長 木 島 利三郎 陸軍伍長 福 田 又一
一〇、一四	故陸軍中尉篠田善太郎外柱の合同慰霊祭を実施す
一一、一	才十野戦補充隊歩兵才二大隊長 陸軍大尉 伊 藤 清
二一、一、三三	在 陸軍少佐 孝感附近の対空戦闘に於ての戦死者

年月日	概要
昭二〇、二二、二三	<p>陸軍中尉 五 尉 英 一</p> <p>部隊は夏焚作戦参加の為其の大部黄家集を出発す</p>
三五	<p>部隊は荆门県大官橋附近に集結し銳意教育訓練を実施す</p>
三、二三	<p>鐘祥県李家塘附近の戦闘</p> <p>本戦闘に於ての戦死者</p> <p>陸軍軍曹 東 王 雄</p>
三、二四	<p>荆门県高松林山高地附近の戦闘</p> <p>本戦闘に於ての戦死者左の如し</p> <p>陸軍兵長 平 松 作 平</p> <p>陸軍兵長 若 田 松 沢</p>
三、二五	<p>南漳県は荒冲附近の戦闘</p> <p>本戦闘に於ての戦死者左の如し</p> <p>陸軍軍曹 高 橋 博 之</p> <p>陸軍伍長 本 田 表 治</p> <p>陸軍准尉 杉 沼 七 郎</p> <p>陸軍軍曹 眞 鋼 萬 市</p> <p>陸軍兵長 伊 藤 寛</p>

外 中 反

<p>三、二六 南漳県陳家山岡主溪山附近は戦闘 本戦闘に於ての戦死者 陸軍伍長 末 安 益 美 陸軍伍長 原 山 幸 七 陸軍伍長 守 屋 忠 雄</p>	<p>三、二九 襄陽附近の戦闘 本戦闘に於ての戦死者 陸軍兵長 豊 永 邦 夫 陸軍兵長 石 橋 弘</p>	<p>四、二二 部隊は襄陽附近の戦闘終了後、及転行動に移リ、三十九師団警備地域荊門県子陵 鋪附近の駐留 襲撃作戦に於て戦死せる故陸軍准尉杉 沼 七 郎 外十三名の告別式を執行す</p>	<p>四、二五 隊は才三十九師団警備地域荊門県子陵鋪附近の継承完了と共に才十野戦補充隊 の隷下を離れ昭和二十年度軍令陸甲才一八号に依り臨時編成、編成改正完結 同日才百三十二師団独立歩兵才六百六大隊と改稱 初代才百三十二師団長 陸軍中將 柳 川 惇</p>	<p>初代独立歩兵才九十八旅団長 陸軍大佐 河 村 貞 雄</p>
---	--	--	---	---------------------------------------

六、三	<p>陸軍主計少尉 永井 博 陸軍上等兵 高石 精士 陸軍上等兵 石橋 吉郎 陸軍上等兵 大津 日出臣 以上四名は本 二十七日分車検疫病院に入院 同日同日現役満期除隊召集解除を命ぜらる 陸軍上等兵 引野 暹 以下二名 博多に上陸米後先調症のため福岡筑紫国立病院に入院同日現役満期除隊を命ぜ らる</p>
六、四	<p>陸軍伍長 市場 豊 以下三名 博多に上陸胸部疾患のため福岡筑紫国立病院に入院同日現役満期除隊召集解除 を命ぜらる</p>
六、五	<p>陸軍軍曹 梶原 国一 以下三名 博多に上陸 マラリアに依り福岡筑紫国立病院に入院同日現役満期除隊並に召 集解除を命ぜらる</p>
六、七	<p>陸軍兵長 山口 又与市 博多に上陸米後先調症に依り福岡筑紫国立病院に入院同日現役満期除隊を命ぜらる 却隊は痘瘡患者に依り隔離を解除せられたるも同船に同乗せる隣接部隊に発診 チブスの発生に依り阿比留離を命ぜらる</p>
六、三	<p>陸軍上等兵 吉本 清四郎 博多に上陸米後先調症に依り福岡筑紫国立病院に入院同日現役満期除隊を命ぜ らる</p>

年月日	概	要
昭二一、六、一七	部隊は船内隔離終了上陸のため一八〇〇博多碼頭に到着す	
六、一八	<p>部隊ハ〇九三〇博多に上陸を開始し検疫並に米軍の検査を受け一六〇〇復員に 関する一般事項及復員式を終了し残務整理要員以外は現役時期除隊並に召集解 除を命ぜられ夫々帰郷す復員式参加人員及事故者並残務整理要員左の如し</p> <p>参加人員 一〇七四名</p> <p>事故者</p> <p>イ、残留者（所在不明者の介）一名</p> <p>ロ、入院患者 八五名</p> <p>ハ、生死不明者 一二名</p> <p>残務整理者</p> <p>陸軍少佐 伊藤 清</p> <p>陸軍軍曹 高野 七五郎</p>	<p>部隊の復員に關する一切の行事は終了し本日無事復員を完結す</p>

第百三十二師団工兵隊略歴

年月日	概	要
昭二〇、四、三八	第百三十二師団工兵隊長として陸軍大尉	江口与四郎隊附として将校二名、見習士官二名、天々命課せらる
四、三九	昭和二十年軍令陸甲第十八号在華部隊臨時編成（編成改正）第三ニニ次復帰（復員）要領に依り茲に本部三ヶ中隊岩村小隊より齎組せる第百三十二師団工兵隊は中華民国湖北省当陽景河添鎮に於て編成を完結す	
四、三〇	第百三十二師団工兵隊は編成定員九〇一名にして当時隊長江口大尉以下五四名（将校一ニ、見習士官一、准士官三、下士官三九、兵四八〇）なり	
四、三〇	爾後工兵隊は駐屯地河添鎮に在りて師団警備地区内の渡河交通作業及築城作業に在りて師団警備一方初平兵（編成時初平兵として来りたるもの）に対する第一期教育歩兵より較科せる者に対する工兵基本教育に専念す	
六、一	一四、ロロ頃より「カーキス」アソシエイト河添鎮兵舎に求襲夜状機銃攻撃に依り	
六、八	屍勤務中の兵一（陸軍上等兵、山林義雄）戦死す	
六、一四	本土兵備要員として梅野中尉以下一七名（将校六、見習士官八、准士官一、下士官二）は河添鎮出發本土に向う	
七、二	七月に入り連日降雨あり間歇的豪雨と相俟て附近河川（沮漳河）は溜に普水と	
八、一三	且急流となり駐屯地西南方二軒にある長さ二二〇米の西河口橋梁（沮漳河合流	

年月日	概	要
昭二〇、七、一五	<p>点架設)は工兵隊より激進せる橋梁確保作業隊の労右の甲斐も無く七月五日早朝遂に流失せり</p> <p>工兵隊は右橋梁再架設のため河峇鎮北方山林地区に架橋材料の伐採に赴き之を臂力及水路両河口に運搬する等材料の整備に長時間を労と一方西河口渡河のため門橋に依る着渡を以て交通を確保し水位の増減差の減少と降雨の終息期を窺い架橋を準備しありたる</p> <p>一〇〇〇頂駐屯地河峇鎮東南方地区より游蕩の匪約五百名河峇鎮華人部落に米穀を企画し頻りに附近を横行す</p> <p>工兵隊は師団命令に基き直ちに隊長江口大尉以下一五五名の討伐隊を編成し之が攻襲に赴き一五〇頃同匪を四散潰走せしめ同夕帰營す</p> <p>本討伐に於て兵一(陸軍上等兵山口正俊)戦死す</p> <p>陸軍兵長入沢正外一名下士官要員として工兵第二十二聯隊より当隊に転入す</p> <p>工兵隊は河峇鎮に於て突然停戦詔書発布の報を受け茲に一切の戦闘行動を停止し徐に後命を待たり</p>	<p>師団の激進及中固軍の進駐を考慮し工兵隊は鏡意河河口橋梁材料の整備に努め八月末概不之を整へ九月初頭水位の変化少なきを予測せられたると師団の較進時期の切迫に伴い一斉に両河口橋梁架設に着手し不眠不休により遂に九月七日迄長二〇〇米の本架橋を完成せり</p>
<p>昭二〇、八、一五</p> <p>至九、七</p>		

年月日	概 要
昭二、五、五 五、元 六、四	内地帰還のため隊長江口大尉以下三八五名上海出發Vの九七に依り博多に向う 福岡県博多港上陸 第百三十二師団工兵隊は復員斯くマ昭和二十年四月二十九日編成以來一年一ヶ月にして茲に復員す

(40)

0200

0053

第百三十二師團通信隊略歴

年月日	要
昭二〇、四、三九	<p>中華民國湖北省當陽縣當陽に於て編成完結 部隊長 陸軍中尉伊豆見元貞以下二六八名 内訳（將校一四、下士官五四、兵二〇〇）</p> <p>本部隊隊長以下 一三名 一中隊 中隊長代理 兵科見士 井上博至以下三一一名 二中隊 中隊長代理 兵科見士 河野靜雄以下一三四名</p> <p>部隊担任地庄 部隊北方の一軒 當陽大橋確保の爲大橋左岸に下士官を長とする長以下五名の分哨配置</p> <p>部隊任務 師団内通信網（有無線失）の確保区間左の如し</p> <p>有線 當陽 — 宣 旨 當陽 — 河 洛 鎮 當陽 — 荆 門 當陽 — 宣 旨</p> <p>無線 當陽 — 荆 門 當陽 — 宣 旨</p>

(41)

0054

内々中支の四

年月日	概要
昭二〇、八一	軍通信横山小隊後退に伴い、史料見土秋本清一以下五三名軍通信の任務を継承担任す
八、四	停戦の大詔発令
二五	復員下令
九、一六	中華民国湖北省當陽縣當陽に於て兵器被服、建物等其他一切中國側に引渡完了
九、一七	敵進のため當陽出發
九、二七	樂中地湖北省天门県天门到着
二、一五、一	帰還の爲湖北省天门県天门出發
五、二四	南京盤踞
一六	上海到着
二五	帰還のため上海出發
六、九	博多港上陸

(12)

0055

第百三十二師團輜重隊略歴

陸軍大尉 有 富 正 一

年月日	概	要
昭二〇、四二九	<p>中華民國湖北省當陽縣穉嶺に於て昭和二十年軍令陸甲第十八号に依る第百三十二師團輜重隊の編成を完結す</p> <p>主幹人員は輜重兵第三十九聯隊より転入し編成時に於ける到着人員四〇四名なり</p> <p>即隊は編成完結と同時に穉嶺地区の警備を担任す</p> <p>依て左の如く兵力を配置し附近の警備並に通信隊の確保に任せしむ</p> <p>穉嶺嶺 主力</p> <p>王家店 長以下十九名</p> <p>劉家店 長以下七名</p> <p>仙 巴 長以下一五名</p> <p>大和場 長以下一五名</p> <p>永迫大尉を長とし一中隊主力（兵力六七戦馬四〇）を荆門峡荆門に位置せしめ同地区の軍需品の輸送に任せしむ</p> <p>第二中隊より一ヶ小隊（兵力三二戦馬二〇）を宜昌縣土門壠に位置せしめ宜昌―麓泉鋪間の軍需品の輸送に任せしむ</p>	<p>七、二〇</p>

(47)

0056

年月日	概要
昭二〇、七、三〇	第三中隊より一ヶ小隊へ天カ三二、輓馬二〇）を富陽に到らしめ第百三十二師
八、四	田司令部の直轄部隊として同地区の軍需品の輸送に任せしむ
二五	停戦詔書の発布
九、二	復員下命
七	停戦協定締結
一〇、七	輓送のため富陽県壽鶴嶺出發
一〇、八	湖北省天门県岳口嶺に集結同地に於て待機す
二一、四、三九	武漢解除着手同日終了
五、天	輓送のため天门県岳口嶺出發
三、天	江蘇省上海到着
六、四	内地帰還のため江蘇省上海港出發
	鹿児島港上陸

(111)

0057

第三百三十二師團兵器勤務隊略歴
部隊長 陸軍大尉 前 原 存 宣

年月日	概	要
昭二〇、四、二八	一、陸軍中尉前原存宣昭和二十年度軍令陸甲才十八号に依り勤務隊長とし之到着	
四、元	一、昭和二十年度軍令陸甲才十八号に依り部隊編成表別紙の如し	
八、一五	二、爾後朔北省富陽県富陽に位置し兵器の補給、修理並に警備に任す	
八、一五	一、停戦下令	
八、二五	一、復員下令	
九、一七	一、天門県天門集結のため富陽出発	
九、二九	一、天門県天門到着	
二一、五、一	二、爾後職業輔導教育、体育等に併せ復員準備に遺憾なきを期す	
五、天	一、内地帰還のため天門出発	
五、天	一、上海到着	
五、天	一、上海港出帆	
六、一	一、鹿児島上陸	

第百三十二師野戰病院略歴

病院長陸軍軍医少佐 本 多 次 郎

年月日	概	要
昭二〇、四、三九	昭和二十年陸軍令陸甲才十八号に依り部隊編成完結	
	中華民國湖北省左記地区に於て野戰病院を開設し患者の収容診療看護衛生兵隊	
	有並警備	
	九 記	
	野戰病院	
	菅 陽	
	荊 門	昭二十年四月二十九日開設
	宜昌	患者療養所
八一五	停戦下令	
八三三	復員下令	
九、二	停戦協定	
九、八	中華民國湖北省天門泉天門集結の爲營陽出發	
九、天	部隊主力は天門に一部は荊口鎮に夫々開設し患者の収容診療、看護並に職業、	
	補導復員準備を行う	
二一、五、一	内地滯留の爲湖北省天門泉天門出發	
五、天	江蘇省上海着	

本公中 又 六の四

五三四
江蘇省上海出帆
六二三
仙崎港上陸

(117)

0060

第百三十二師団病馬救略歴

年月日	概	要
昭二〇、四、二九	一、昭和二十年庚辰令陸甲第十八号に依り部隊編成完結(部隊編成表別紙才一の如し)	
六、一〇	二、爾今別紙第二要函の如く湖北省當陽県當陽に位置し病馬の収容診療蹄鉄工兵の教育並に警備に任しあり	
七、二二	一、本土兵備要員として廠長陸軍獣医大尉井上繁義外下士官五名部隊を出發	
八、一五	一、陸軍獣医大尉大井守雄廠長として到着	
八、二五	一、停戦下令	
九、八	一、復員下令	
九、二二	一、天門県天門鎮の爲當陽出發	
二一、四、二六	一、天門鎮新堰口到着	
五、二二	二、爾後職業輔導教育体育等と併せ復員準備に任じあり	
五、二二	一、内地帰還の爲新堰口出發	
五、二二	一、上海到着	
五、二二	一、上海港出帆	
五、二九	一、鹿児島港上陸、同日復員式挙行	
	廠長大井守雄外六四名解隊召集	